



# 國分寺高校野球部

OBOG だより

2025年12月発行





OBOG 会長ご挨拶 p1

指導者よりご挨拶 p2

2025 年春・夏・秋大会戦績 p3

新旧キャプテンより p4

マネージャーより p5

本年度活動報告 (春・夏・秋大会) p6

マスターズ甲子園 p8

OBOG ゴルフ大会 (信幹杯) p10

OBOG 野球大会 p11

OBOG 今日この頃 p12

高校野球の指導者となって p13

編集後記 p15

TEAM	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	計
國分寺	5	0	3	0	0						8
東京	0	2	0	5	2						9

## OBOG 会長ご挨拶

12期 高辻 聰



OBOG 会の皆さんにおかれでは如何お過ごしでしょうか。日頃より母校野球部への温かいご支援と会の活動にご理解とご協力を賜り心より厚く御礼申し上げます。

去る8月の総会で引き続き本会会長を務めることとなりました12期の高辻 聰です。微力ではありますが、野球部の発展のため、また、本会の永続的な活性化のため尽力してまいる所存ですので、ご指導・ご鞭撻のほど宜しくお願ひいたします。

さて本稿は、OBOG 会活動の柱の一つでもあるマスターズ国分寺が 2025 東京大会準々決勝で惜敗し、悔しさ溢れる中で筆をとっております。来年こそは、と還暦を過ぎたわが身にもう少し鞭を入れようと、年の瀬に向けて心新たにしているところです。

一方、同時に思うのは、“会員同士の親睦に野球は欠かせない”ということです。現役時代に紡いだ横のつながりが縦に広がり、先輩後輩の垣根を超え、相互にとって有意義な場になっています。やる人・観る人・応援する人の輪を広げる工夫や努力を続け、一層活性化させたいと思います。

今回で会報も第5号となりました。先生や新旧キャプテンに加え、マネージャーからのメッセージや現役の活動状況等、盛りだくさんです。どうぞお楽しみください。

「いつか、必ず甲子園で応援を!!」のスローガンのもと、母校野球部に経済的支援をすることが本会の一丁目一番地。それを忘れず、先生方やご父兄とも連携し、少しでも多くの力を結集しましょう！

会の活動状況は、下に記載のHPへの掲載や Facebook、メール配信が中心です。これらを通じて「つながっている」方は、会員総数 921名の約半分に留まります。輪を広げるためにも、まだつながっていない同期や近しい先輩後輩の連絡先（メールアドレスや住所、電話番号等）を事務局までお知らせください。つながりたいというご要望にもお応えしています。どうかよろしくお願いします。

最後になりますが、みなさまのご健康とご多幸、本会の隆盛を祈念し、挨拶とさせていただきます。有難うございました。コッコー、ファイ！



還暦ライブで歌う高辻会長



総会での会長挨拶

<HP> <https://kokubunjibaseball.com>

<facebook> <https://m.facebook.com/groups/327301050726920>

<Mailing List宛メール> [kokubunjibaseball@googlegroups.com](mailto:kokubunjibaseball@googlegroups.com)

<事務局宛メール> [kokubunjibaseball@gmail.com](mailto:kokubunjibaseball@gmail.com)

## 指導者よりご挨拶

国分寺高校野球部 OBOG 会の皆様、

今年度も多大なご支援有難うございます。

OB の高辻さん、大澤さんには  
部活動支援員として大変お世話になっております。

今年度の野球部員は 55、56、57 期生になります。

3 年生選手 14 名、マネージャー 2 名、2 年生選手 14  
名、マネージャー 2 名、1 年生選手 13 名、マネージャー 3 名、合計 48 名です。



先般の選手権大会、桜美林戦では、多くの卒業生の皆様にジャイアンツタウンスタジアムにご来場頂き、熱い声援をいただきました。結果は残念でしたが、選手達は残間主将を中心に三年間の成長した姿を十分に発揮して戦ってくれました。国分寺高校野球部員の誇りと野球部で積み重ねてきた自信、チームワーク、諦めないマインド等、素晴らしい試合でした。3 年マネージャーの 2 名も最後まで選手を支えてくれました。

新チーム 56、57 期生は 夏の尾瀬強化合宿からスタートしました。主将の栗田、篠田、マネージャーの伊藤、木村を中心に、伝統の文武両道で成長していくことを期待しています。

厳しい冬期練習を通じて強化に努めてまいります。球春が楽しみです。

OBOG 会の皆様、

今後とも野球部への支援、ご声援を宜しくお願い致します。皆様の益々のご活躍とご健勝をお祈りしております。

国分寺高校野球部

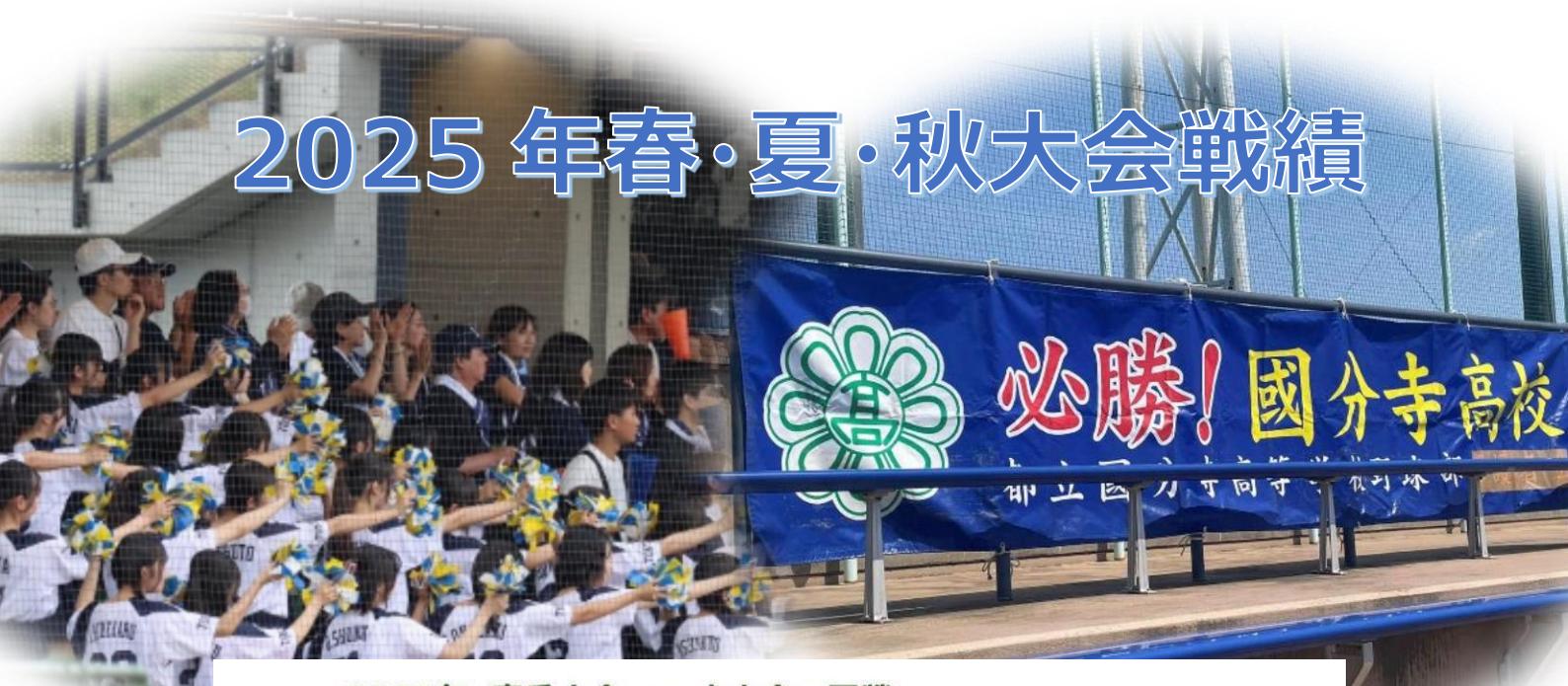
監督 湯原功久

部長 原 壮一

顧問 梶原崇史



# 2025年春・夏・秋大会戦績



## 2025年 春季大会 ~ 本大会一回戦

ブロック予選：一回戦 3月16日@明大八王子G

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	R	H	E
久留米西	0	1	0	1	0	0	0	0	1	3		
國分寺	4	0	0	1	0	0	0	0	0	5		

ブロック予選：二回戦 青梅総合出場辞退により不戦勝

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	R	H	E
青梅総合												
國分寺												

都本大会：一回戦 4月2日@府中球場

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	R	H	E
日大二高	0	0	2	0	0	0	5	0	6	13	14	3
國分寺	0	0	3	1	0	0	0	0	0	4	7	1

## 2025年 夏季大会 ~ 二回戦

二回戦 7月13日@ジャイアンツタウン球場

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	R	H	E
國分寺	0	0	0	4	0	0	0	0	0	4	7	1
桜美林	0	0	0	0	1	0	1	3	×	5	11	1

## 2025年 秋季大会 ~ ブロック予選一回戦

ブロック予選：初戦 9月14日@佼成学園G

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	R	H	E
小川	1	0	0	0	0	0	3	0	0	4		
國分寺	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2		



## 前キャプテンより

### 55期キャプテン 残間 勇気

55期は、7月13日に桜美林高校に敗れ引退しました。本気で上を目指していたのでとても悔しかったですが、自分たちの全てを出せた試合だったと思います。最高の球場で素晴らしい応援の中で強豪桜美林を追い詰めることができ、自分たちにしかできない野球を多くの人に見せることができました。



この3年間でとても様々な経験をしました。最高の仲間に出会い、その仲間たちと勝利を目指して切磋琢磨してきた日々は自分にとっての宝物です。このチームのキャプテンとしてチームを引っ張っていくことができ本当に良かったなど引退して、一層深く感じました。このかけがえのない3年間の経験をこれから的人生に活かしていきます。

今まで支えてくださった皆様、本当にありがとうございました。

## 新キャプテンより

### 56期キャプテン 栗田 隼希 篠田 洸太



まずは日頃からの国分寺高校野球部へのご支援、応援ありがとうございます。

練習から試合まで不自由なく満足のいくプレーができていること感謝いたします。

新チームができてから秋季大会を経て、チームはとても大きく成長しており、さらにここから何倍も強くなると感じております。夏合宿ではとにかくがむしゃらに、ひたむきに、自分が上手くなることだけを考えて、秋季大会の為だけに辛い練習を乗り越えました。しかし、秋季大会の初戦敗退という悔しい思いをしたことにより、目的を持って、自分たちには何が足りないのかを考えて練習、プレーをするようになりました。特に2年生は残された時間が残りわずかだということを自覚し、練習から目付きが変わり、試合で結果を残す、自分がレギュラーになるという思いが溢れ出てきたように感じます。

ですが、まだまだ自分たちの、「神宮」という目標には程遠い立場だという自覚があります。これからは個人の能力を上げるだけでなく、チームとしてどう戦っていくか、どう勝っていくかということを考え、その目的のためにチームがひとつになることが必要になります。この冬は目的を見失うことが最大の難点です。まずはチーム全体の基礎能力の向上、チームができてから曖昧になっている細かいプレーの確認、走塁守備での野球観のチーム内の差など、まだまだ課題は山積みです。これらを修正したものを春季大会で発揮し、チームとして自信をつけ、夏季大会まで定着させるのが理想だと考えています。

最後の夏で自分たちがどのグラウンドで試合をしたいのか、いつまで試合をしてみたいのか、どの相手と試合をしてみたいのか、理想を掲げつつ、自分に向き合って、まずは冬トレ、去年とは比べ物にならないほど鍛えたいと思います。これからもぜひ応援よろしくお願ひいたします。

## マネージャーより

### 56期マネージャー 伊藤 愛華 木村 美結

いつも温かい応援やサポートありがとうございます。皆様のおかげで、私たちは日々の活動を不自由なく続けることができています。



56期、57期の新チームになって初めての夏合宿では、ボールに食らいつき、仲間と刺激し合いながら練習に励み、忍耐強さを鍛えました。普段とは違った環境で、野球にとことん向き合えた4日間でした。秋季大会では小川高校に負けを喫し、自分たちの野球をし切れない悔しさを痛感しました。

夏の目標に到達するためには、野球への向き合い方を見つめ直し、個々の意識、技術のさらなる向上が必要だと感じています。また、コミュニケーションを大切にし、積極的に意思疎通を図ることも重要だと思います。

私たちマネージャーもチームの一員として、目標に向かって最大限のサポートをしていきます。準備やデータ分析など細かな部分に気を配り、選手が野球に集中できる環境をつくりたいと思います。

国分寺高校野球部が学校の代表となるよう、日々の練習を大事にし、強くなり続けます。

今後とも変わらぬご声援のほど、よろしくお願いいいたします。





## 本年度活動報告（春・夏・秋大会）

日頃より国分寺高校硬式野球部へのご支援とご声援、感謝申し上げます。本年度の活動（55期の春・夏、56期の秋）につきまして、以下の通りご報告をさせて頂きます。

### 【55期の軌跡】

#### ～「0-17」からの飛躍。古豪・桜美林を追い詰めた集大成の夏～

残間キャプテン、酒井副キャプテン体制でスタートした55期。彼らの船出は、あまりに過酷なものでした。新チームで臨んだ昨秋（2024年）の一次予選、強豪・日大鶴ヶ丘高校を相手に手も足も出ず、0-17という屈辱的な大敗を喫しました。「大人しい」と言われ続け、どん底からスタートした彼らが、この冬にどれだけ自分たちを追い込み、変われるかが問われた一年でした。

#### ▼春季東京都大会（2025年3月～4月）～確かな成長の証～

長い冬を越え、迎えた春。一次予選を突破して挑んだ本大会1回戦の相手は、西東京の強豪・日大二高でした。3回表に2点を先制されるも、その裏、国分寺打線が繋がり一挙3点を奪い逆転。さらに4回裏にも1点を追加し、4-2とリードして中盤を折り返しました。終盤に力尽き4-13で敗れましたが、秋には歯が立たなかった私学強豪校に対し、一時リードを奪い堂々と渡り合う姿は、冬のトレーニングの成果を証明するものでした。

#### ▼第107回全国高校野球選手権西東京大会（最後の夏）～古豪・桜美林との激闘～

迎えた集大成の夏。7月13日、ジャイアンツタウンスタジアムで行われた2回戦の相手は、かつて甲子園優勝経験もある古豪・桜美林高校。

試合が大きく動いたのは4回表、国分寺の攻撃でした。先頭の9番森がセンター前ヒットで出塁すると、続く8番福家が絶妙なバントヒットでチャンスを広げます。その後、満塁の好機を作ると、2番名古屋のスクイズ（野選）でまず1点。なおも2アウト満塁の場面で、5番平野がレフトへ走者一掃のタイムリーツーベースを放ち、この回一挙4点を先制。スタンドが揺れるほどの盛り上がりを見せました。



25期 大澤 晃弘  
(外部指導員)

守っては先発のエース残間が粘りのピッチング。5回、7回に1点ずつを返され4-2と詰め寄られますが、要所を締めリードを保ちます。しかし、野球の怖さは終盤にありました。6回途中からマウンドを託された松本が必死の継投を見せましたが、迎えた勝負の8回裏。桜美林打線の猛攻を受け一挙3点を失い、4-5と土壇場で試合をひっくり返されました。9回表、粘りを見せランナーを出しましたが、あと一本が出ずゲームセット。

「0-17」の大敗から始まったチームが、最後の夏は強豪・桜美林をあと一歩まで追い詰めました。静かなチームと言われながらも、内に秘めた闘志で最後まで戦い抜いた彼らの成長と意地は、間違いなく国分寺野球部の歴史に残るものでした。



## 【56期の始動】

### ～総勢32名の新体制、ダブルキャプテンでの船出～

55期が引退し、56期を中心とした新チームが始動しました。本年は、2年生（56期）16名、1年生（57期）16名の総勢32名

（うちマネージャー5名）という、近年稀に見る大所帯となりました。この人数を束ねるため、新チームでは篠田（捕手）・栗田（投手）の「ダブルキャプテン体制」を採用。バッテリーを中心とした強いリーダーシップで秋季大会に挑みました。

### ▼秋季東京都大会（対 都立小川高校）

9月14日、佼成学園グラウンドにて行われた初戦の相手は都立小川高校。夏も経験している好投手（船谷君）を擁する実力校です。

先発の左腕エース・栗田（2年）は、立ち上がりに1点を失うものの、以降は変化球を低めに集め、要所を締める粘りの投球。打線は相手エースの力のある球になかなか好機を作れず、0-1で前半を折り返しました。

試合が動いたのは6回表。疲れの見えた相手投手を攻め、4番・宗宮（2年）の右前安打、5番・篠田（2年）の適時三塁打で同点。さらに6番・岸野（2年）がきっちりライトへ犠牲フライを放ち、2-1と一気に逆転に成功しました。しかし直後の7回裏、連打と長打を浴びて3点を失い、再逆転を許すと、その後は反撃の糸口を掴めぬまま2-4で惜敗。

劣勢を跳ね返した集中打は見事でしたが、リードしてからの試合運びと守り、そして終盤の体力が課題として残りました。この冬は、総勢32名によるチーム内競争で、これらを克服していきます。



## 【最後に】

OBOG会の皆様方に於かれましては、引き続き現役選手たちへのご声援とご支援をお願いするとともに、是非球場に足を運んで頂き、人

数が増え活気に満ちたグラウンドの様子を見て頂ければ幸いです。

引き続き、宜しくお願い致します。



52期 斎藤 春輝 船橋 透真



皆様はじめまして、52期の船橋と斎藤です。本年度の予選から参加させていただいております。参加してまず感動したのは、様々な業界で活躍されている先輩方と交流できることです。アップ中やベンチなどで聞くお話は大学では学べないことばかりです。学生生活では関わることの少ない、人生の先輩方から頂くアドバイスは貴重な財産になっています。



初参加の54期・菊地主将との  
超若手スリーショット

そして、何より驚かされたのが先輩方の「打撃力」です。打線がつながると攻撃が止まらず、参加する前の予想を遥かに超えて打ちまくります。若い世代は、一人で参加することに壁を感じている人も多いかもしれません。しかし、一度グラウンドに足を運べば、その壁はすぐに消え純粋に野球を楽しめる温かい空気が待っています。少しでも興味がある若手の皆さん、ぜひ一度来てみてください。

一緒にこの楽しさを体感しましょう！



親子で参加！  
船橋英晴（16期）透真（52期）



斎藤（52期）の豪快なバッティング



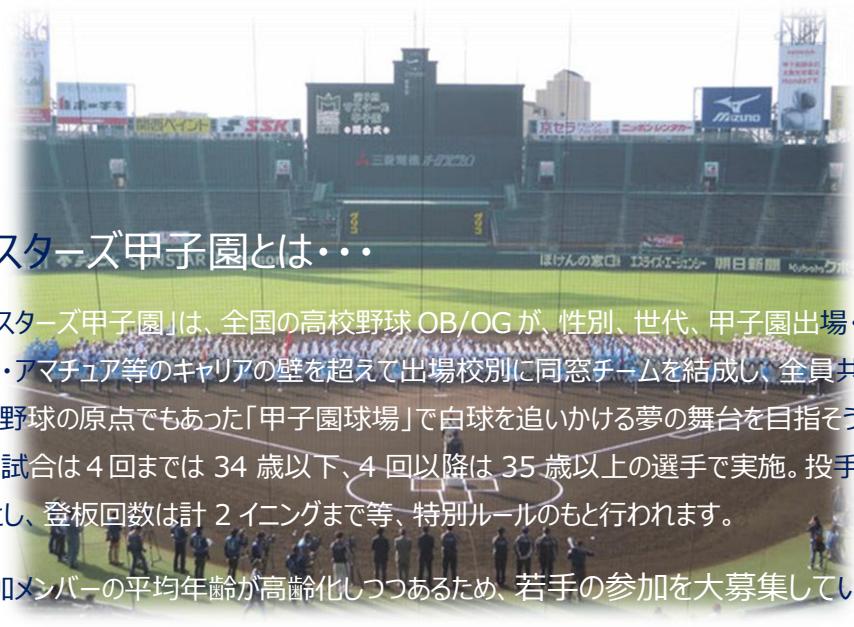
## 24期 永野 圭佑

私たちのチームは 40 歳代以上が中心ですが、年齢を理由に一歩も引くことはありません。マスターズ甲子園という舞台で、強豪校の若手 OB たちに果敢に挑み、勝利を目指して汗を流しています。練習の一球一球に、かつての青春の情熱を込め、仲間とともに再び夢を追いかけています。

「もう一度、甲子園へ」——その思いが私たちを突き動かし、グラウンドに立つたびに胸が熱くなります。

年齢を重ねてもなお挑戦できること、仲間と共に戦えること。

その誇りを胸に、私たちは全力で勝利をつかみにいきます！



## マスターズ甲子園とは…

「マスターズ甲子園」は、全国の高校野球 OB/OG が、性別、世代、甲子園出場・非出場、元プロ・アマチュア等のキャリアの壁を超えて出場校別に同窓チームを結成し、全員共通の憧れであり野球の原点でもあった「甲子園球場」で白球を追いかける夢の舞台を目指そうとするものです。試合は4回までは34歳以下、4回以降は35歳以上の選手で実施。投手は27歳以上とし、登板回数は計2イニングまで等、特別ルールのもと行われます。

参加メンバーの平均年齢が高齢化しつつあるため、若手の参加を大募集しています。

## 2025年シーズン マスターズ甲子園 ~ ベスト8

リーグ予選第1戦： 9月7日@小野路球場

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	R	H	E
国分寺	4	0	1	3	3					11	11	3
日体荏原	0	0	3	4	3					10	11	3

リーグ予選第2戦： 11月1日@小野路球場

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	R	H	E
国分寺	2	3	12	13						30	11	1
都武蔵	0	0	1	0						1	3	4

決勝トーナメント 準々決勝： 11月23日@駒沢球場

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	R	H	E
国分寺	0	0	1	0	2	1	0			4	7	1
日大二高	1	1	0	0	1	3	×			6	9	2



去る 10 月 12 日 (日)、「信幹杯」ゴルフ大会を北武藏カンטריクラブにて開催いたしました。

秋晴れの絶好のゴルフ日和に恵まれ、9 名の皆様にご参加いただき、親睦を深めながらラウンドすることができました。

### 「信幹杯」初参加レポート 15 期 金子 奈美子

国分寺高校野球部 OBOG ゴルフ会「信幹杯」に、この度初めて参加させていただきました。OG 初です。

当日は雲一つない快晴で、10 月とは思えないほど暑いくらいの絶好のゴルフ日和！ 会場に着くまでは少し緊張していましたが、同期の伊藤多嘉志くん、栗原くん、吉田くんたちの顔を見て、一気にホームに戻ってきたような安心感に包まれました。

実は、私がゴルフを始めたのは今年に入ってからの全くの初心者です。長年親しんできたバレーボールが、最近体力的に厳しくなってきたため、代わりとなるスポーツとしてゴルフに挑戦し始めたばかりでした。そんな手探りの状態で OBOG 会のゴルフに参加するのは少し気が引けましたが、杞憂でした！

ラウンド中はもちろん、表彰式でも、皆さん本当にフレンドリーで、初参加の私にも優しく声をかけてください、終始和気あいあいとした雰囲気で楽しむことができました。ゴルフのスコアはさておき（笑）、先輩方や同期との楽しい会話を通じて、改めて国分寺高校野球部 OBOG 会の温かいつながりを感じることができました。

現在は横田基地で働いており、日々の業務に追われることも多いですが、今回の「信幹杯」でリフレッシュし、旧友や先輩方との絆を深めることができ、大変有意義な一日となりました。

これからは、今回のようにスケジュールが合えば、ぜひまた次回以降も積極的に参加させていただきたいと思っています。OG 参加の数も増えていく事に期待しています。

事務局の皆様、そしてご参加の皆様、楽しい一日を本当にありがとうございました！ これからもどうぞよろしくお願ひいたします。



2025年8月24日、定期OBOG総会を学校視聴覚室&オンラインのHybridにて開催致しました。その後、猛暑の中、恒例のOBOG野球大会を湯原監督と現役チームの協力のもと行いました。議事の詳細については、<https://kokubunjibaseball.com/>を参照ください。



### 10期 芦沢 伸二

10期の芦沢です。10年くらいご無沙汰していたOBOG野球大会に、今年は参加してきました。

木もれ陽をもたらしていた学校の周りの雑木林は無くなっていて、住宅が密集。校舎も見えず、一瞬不安になりましたが、そのまま進めば、見覚えのある校舎が見えてきます。門を一歩入れば、昔のままの空間が広がっていました。

久しぶりの硬式野球だったので、最初は怖さしかありません。それでも、キャッチボールをして、トスバッティングをして、ノックを受けているうちに、徐々に楽しくなっていました。

試合では、振ったバットにたまたま当たったボールが外野まで飛んで大満足。

若いOB達のパワーとスピード感あふれるプレーは、見ているだけでも心地よいものでした。幅広い世代の、色々なレベルのプレーヤーが、一緒にプレーを楽しめるのはOBOG野球大会ならではの良さですね。

試合の後は、シャワーを浴びてサッパリしてから飲み会へ。後輩達と飲み交わすお酒は、いつもより格段に美味しく感じました。

この機会を作ってくれた（継続してくれている）役員の皆さんには、本当に感謝しています。

これからもよろしくお願いします！

P.S. 10期OBの皆さん、次回は一緒に野球しましょう。

来夏、母校のグラウンドでお会いできるのを楽しみにしています。

# ～ OBOG 今日この頃 ～

## 28期 杉本 直紀

### 選手・高校生として、学生監督・助監督として

#### 1. 選手・高校生として

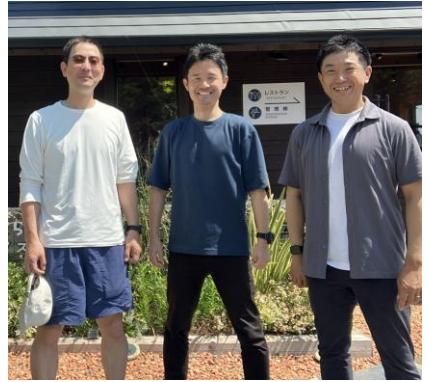
自分たち28期は約20人の部員がいました。例年よりも大人数だったこともあり、とても賑やかだった記憶があります。多くは中学で軟式野球を経験していましたが、サッカー部やバドミントン部出身の部員もいてバラエティに富んでいました。野球部での3年間の思い出を挙げればキリがありません。入部当初の長距離走がキツかったこと、チームメートと継続して自主練に取り組んだこと、西東京大会での勝利をみんなで分かち合ったこと。野球以外でも、クリスマスにガストで集まって他愛もない話をしたこと、部室の大掃除を妙に頑張ったこと、トラブル続きの自転車旅行など、今となってはかけがえのない思い出です。

最後の大会では4回戦で負けてしまい、何か特筆すべき結果を残すことができなかったのですが、加藤木先生のご指導のもとで十分に野球に取り組むことができました。当時は試合が楽しみであり、日曜日や祝日の活動は当たり前でしたが、社会人になった今となっては日曜日にも時間を割いてくれた加藤木先生には、そのご厚意と情熱に今あらためて深く頭が下がる思いです。

#### 2. 学生監督・助監督として

高校卒業後、顧問であった加藤木先生が他校へ赴任することになったこともあり、4年間本校野球部の指導に携わる機会をいただきました。大学生としての本分と野球部の指導を両立させることは大変ではありましたが、新しく顧問になった先生方やOBの先輩方のご協力のおかげで何とかやり遂げることができました。ただ、野球やメンタルトレーニングなどの勉強はしていたものの、指導力が十分ではなかったことは後輩の選手たちに申し訳なく思っています。

学生監督・助監督を務めた4年間で、幸運にも2度（29期・32期の選手達）、国分寺高校野球部が西東京大会でベスト8に進出するのを目の当たりにすることができます。29期の選手が準々決勝で日大三高と死闘を演じた試合は鮮明に覚えています。序盤に5点リードされた後、中盤に同点に追いついたのですが、そのときの府中球場の異様な雰囲気とベンチ内での高揚感は今でも忘れる事はできません。また、32期の選手がベスト8に進出する過程でシード校を撃破した時の感動は何よりの財産になっています。いま思えばあの時が国分寺高校史上、最も甲子園に近づいた瞬間だったかもしれません。しかし「国分寺高校野球部の真の栄光はこれからだ」と思いながらこの原稿を書いています。いまの部員の皆さんのが西東京大会で躍動し、甲子園に行く姿を見たいと本気で思っています。仲間を信じ、自分自身を信じて、どうか誇り高く戦ってください。皆さんの夏を心から楽しみにしています。



28期のメンバーとキャンプ場にて（2025年7月）向かって左から本田・杉本・佐藤

## 高校野球の指導者となって

### その1：33期 大坪 健太

#### 「このまま自分たちの野球を終わらせる訳にはいかない」

大会後、そう思ったことを記憶している。

センターの前へライナー性の打球が飛んできた。一步目を一瞬迷った後、打球に飛びついたが芝がグラブの先に引っかかり、グラブの下を打球が抜けていった。記録はランニングホームランだが、私のエラーだった。痛恨の3点が入り、私の夏は終わった。

18歳は自分の進路に頭を悩ませる時期である。私もまだ道は定まっていなかった。だが、これをきっかけに私は甲子園を再び目指す思いを抱いた。この国分寺高校の指導者になり、指導者として再びあの地を目指す。こうした考えに至った。当時は今のように外部指導員の存在が一般的ではなかったため、その時から体育科高校教員になることを志し、大学へ進学した。

そこから私に多くの壁が待ち受けていた。まずは、教員採用試験。その採用試験に合格しても中学籍か高校籍かどちらで採用されるかわからなかった。私は試験に合格して、仮に合格が取り消しになってしまって良いという気持ちで強く希望したのも幸いしたのか運良く高校籍となった。

しかし、採用された北豊島工業高校は硬式野球部のない学校だった。初めて春休みに見た光景はジャージと制服の3人の生徒がグラウンドで遊ぶ光景。その制服2人が野球部だった。私は自身の目標に近づくためそんな軟式野球部を硬式野球部に変え、高校野球の道を改めて歩み出した。何とか夏の1勝をもぎ取ったが、生徒とは常に戦いの日々だった。

次に着任した学校は立川高校夜間定時制。当然、硬式野球部はない。普通に過ごしていたら知ることのなかった、ある意味この東京の闇を身をもって学ぶことができた4年間だった。

そこでは併設された全日制の硬式野球部をまたま私の高校時代に監督であった大兼先生が監督としてご指導をされていたことで全日制野球部にコーチとして携わることができた。自身の恩師である大兼先生と当時の答え合わせをしながら仕事をできた日々は大変貴重な時間となった。

2度目の異動となり国分寺高校を目指したもの、意は叶わず部員3人の中野工業へ。硬式野球部ではあったものの、学校は荒れ、まともなグラウンドではなく、指導者としてチームを勝ちに導くことはできなかった。そして3度目の異動でも国分寺への異動の希望は叶わず、現在の府中工科高校へ。しかし、ここでは本気で甲子園を目指す多くの指導者と出会うことができ、真に野球を学ぶことができた。初めて人数のいる野球部へ赴任し、野球を真剣に見て考える日々を今は送ることができている。

今年、教員として17年目を迎えている。まだ、高校野球の監督として一度も「勝負」はさせて貰っていない。しかし、これまで本当に多くのことを学ぶことができた。恐らく、初任、2校目、3校目のタイミングで国分寺に行っていたとしても真の目標に近づくことはできなかったと、今はそう思っている。本気で思い、目指し、歩んでいれば、その時はきっと必然的に訪れる。そう信じて。

これまで何度も高く多くの壁が目の前に立ち塞がり、心が折れそうになることもたくさんあった。だが、まだあの時の18歳の自分が立てた目標から、私は目を逸らしていない。



## 高校野球の指導者となって

### その2：39期 中山 直人

国分寺高校野球部 OBOG の皆さま、こんにちは。39期の中山直人と申します。私は国分寺高校で教員としての生活と野球部指導のスタートを切り、現在は立川高校に勤務しております。国分寺高校のOBの方々には多くの素晴らしい指導者がいらっしゃる中、僭越ではございますが、母校で指導者として歩み始めた経験について書かせていただきます。

野球の指導者となった今、折に触れて強く感じるのは、私の原点が常に国分寺高校にあるということです。母校で学び、野球に打ち込み、そして教員として最初に赴任した学校も母校でした。助監督、責任教師として四年間野球部の指導に携わることとなったこの巡り合わせは、自分でも想像していなかつたものであり、今振り返っても特別な意味を持つ時間でした。

教員としても野球部顧問としても右も左もわからないまま、緊張のうちに始まった母校での指導でしたが、グラウンドに流れる空気はどこか懐かしく、「母校である」という事実が未熟だった私を支えてくれていたように思います。学生時代に過ごした場所に、今度は指導者として立つという不思議さが、日々の励みになっていました。

また、当時の監督や選手たちからは本当に多くの学びを得ました。指導者という肩書きを持ちながらも、実際には私の方が日々教えられていました。練習に向き合う真剣さ、仲間を思いやる言葉、思うようにいかない時の葛藤や悔しさなど、選手一人ひとりの姿は「指導とは何か」を問い合わせきっかけとなりました。勝利を目指す中で得られるものは大きいのですが、それ以上に価値があったのは、選手たちの成長に寄り添う中で、自分自身も指導者としての視野を広げることができたという点です。



（編集注）公式戦前でノックバットを握る中山先生



（編集注）中山先生の現役時代

すべての始まりが国分寺高校にあったという実感は、年月を重ねるほど強くなっています。指導者としての原点が母校にあることは、今も私の誇りであり、支えとなっています。これからも、あのグラウンドで得た学びを胸に、選手たちと共に歩み続ける指導者でありたいと考えております。

## 編集後記

多くの OBOG に御協力・寄稿頂き、昨年に引き続き OBOG だよりを発行することができました。ご多忙のなかご寄稿頂いた皆様に、改めて御礼申し上げます。

世代交代とは組織運営を年長者から若年層にスムーズに移していくことですが、どのタイミングで世代交代するのがよいのでしょうか。人生 100 年時代と言われ、元気な年長者が増えていくことにより、世代交代の時期を見失うおそれがあります。この OBOG だよりの編集を行う年長者は時代錯誤におびえるとともに、OBOG だよりが世代間のコミュニケーションに役立つことを願うばかりです。皆さんはどう思われますか。この OBOG だよりを読まれた方の中で、ご意見・ご感想のある方、またご協力頂ける OBOG は、是非とも、事務局まで連絡下さい。OBOG メンバーの方々の積極的なご参加を期待しております。

＜事務局宛てメール＞ [kokubunjibaseball@gmail.com](mailto:kokubunjibaseball@gmail.com)

最後に、月並みではありますが、OBOG 会は会員の親睦は勿論のこと、野球部活動への金銭的バックアップサポートを主な目的としています。会費の納入はいつでも受付けておりますので、ぜひご協力下さい。

＜年会費のお知らせ＞

- 社会人 一口 2,000 円
- 大学生 一口 1,000 円

※金額の上限はございません。ご支援頂ける範囲で、何口でもお願ひします。

会費納入は、いつでも結構ですが、夏の甲子園予選と本大会・秋季都大会のある 7-9 月を毎年納入推奨期間としております。

＜お振込み先のご案内＞

※振込みの際、期数・お名前の記載を必ずお願ひします。

### 三井住友銀行

店名： 神保町支店  
店番： 001  
預金種目： 普通預金  
口座番号： 2214471  
口座名義： 都立国分寺高等学校野球部 OB 会

編集担当： 山崎（16 期）

編集補佐： 仁木（13 期）

<https://kokubunjibaseball.com>

### ゆうちょ銀行

■ゆうちょ銀行から振込みの場合  
記号： 10130  
番号： 70089781  
口座名義： 都立国分寺高等学校野球部 OB 会

### ■他金融機関から振込みの場合

店名： 0一八  
店番： 018  
預金種目： 普通預金  
口座番号： 7008978  
口座名義： 都立国分寺高等学校野球部 OB 会